

## ○ インバウンド対応・海外へのアプローチはかる、今年度8千頭出荷を計画—TOKYO X

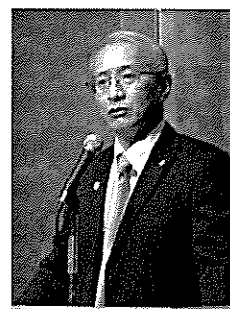
東京のブランド豚「TOKYO X」の流通・販売関係者で組織するTOKYO Xアソシエーション(植村光一郎会長)は10日、東京・八王子市内で16年度定時総会を開いた。総会では、15年度事業報告および16年度事業計画・収支予算案などを原案どおり承認され、役員改選では、植村会長や道下泰治副会長・監事(三越伊勢丹フードサービス外販統括部外販部水産・畜産事業部長)らを再任し、林実理事(西友)の後任に西友の川原昭広氏(ローマテリアルソーシングダイレクター)が就任した。前年度の出荷実績は8,273頭と前年度(7,428頭)から増加した。16年度は一部農場でPEDが発生した影響を鑑みて8千頭の出荷を見込んでいる。

16年度事業計画では、前年度に引続き▽共同生産出荷に関する協議▽流通・販売等の検討会▽枝肉目合わせ会▽トレーサビリティ検討委員会▽食育事業参加▽アグリネイチャー事業の参加▽生産拡大委員会の実施▽東京オリンピック対策協議委員会——などを実施する。また、新しい取り組みとしてインバウンド対応の情報発信と海外イベント事業への参加を掲げた。原則TOKYO Xは都内限定で販売されるが、インバウンド需要に対応するため、東京産のブランド豚として海外へ積極的に情報発信を行うほか、海外のイベントなどに試食用のサンプルを持ち込むなどして積極的にPRしてゆく方針だ。そのほか、「東京ブランド推進キャンペーン」に参画することで、TOKYO X製品に添付するシールについて、東京オリンピック・パラリンピック終了までの期間「&TOKYO」のロゴをあしらったシール(=図)との併用



を認め、従来シールといずれかを添付することを認めた。しおりも、東京オリパラ対応のイベント用として、従来のピンク色のマークを金色に変えて、日本選手の金メダル取得を応援してゆく。

総会で植村会長は「15年度の出荷は8,273頭だった。これもPEDの影響で頭数が思ったほど増えなかったが、14年度(7,428頭)から若干増えることができた。ただ、今期は、大型の養豚場でPEDvが侵入したことで子豚を150頭ほど淘汰したうえに、清浄化するため人工流産させたことで、7~8月にかけて出荷が大幅に減少することも想定される。そのため、頭数が多く出るときに冷凍保管するなど調整して、ギフトや夏の中元に対応してゆかなければならないと考えている」と、会員に協力・理解を求めた。一方で「外国人観光客にもTOKYO Xを食べてもらうため、海外に向けての情報発信を行いつつ、飲食業界への供給にも力を注いでゆく。また情報発信など海外へのアプローチに加えて、海外向けのお土産にも対応してゆきたい」と意欲を見せた=写真。



また東京都産業労働局農林水産部農業振興課の松川敦課長は来賓あいさつのなかで、16年度からTOKYO Xの生産者の規模拡大や新規参入、種豚導入および出荷経費の支援、系統の維持と原種豚の生産・販売を行う現東京都農林水産振興財団青梅畜産センター(東京・青梅市)の施設整備など、TOKYO Xの生産拡大事業を新たに展開していることを紹介し、理解を求めた。

## ○ 連結子会社で減損損失が発生、16年3月期連結業績予想の修正を発表—福留ハム

福留ハムは10日、連結子会社で減損損失が発生したことを受けて、16年3月期連結業績予想を修正した。連結子会社の松戸福留の固定資産について、事業環境と今後の業績見通しを勘案した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し減損損失を計上した。今回発表した予想では、売上高を283億900万円(前回発表予想290億円)、営業利益を6億700万円(同4億円)、経常利益を6億4,900万円(同4億2,000万円)、当期純利益を1億2,000万円(同2億2,000万円)に修正した。

修正理由を、売上高はWHO報道の影響もあり微減となる見込み、営業利益と経常利益は価格改正やコスト削減などで前回公表した予想数値を上回り、当期純利益は連結子会社の固定資産の減損処理に伴い、繰延税金資産を取り崩したため修正するとしている。